

## 1 事業総括

平成29年度の通所事業は、開始者が昨年度比1人増、終了者が昨年度比3人減であり、月利用実績が昨年度の25.5名から28.3名へ大きく増えた。社会復帰促進事業と通所事業をセットとした段階的支援が定着してきたことが少なからず影響している。一方で訪問事業は、月利用実績が昨年度の3.2名から2.8名と更に落ち込んだ。実態に即すため、平成30年度は通所事業35名、訪問事業5名に定員を変更している。

通所事業終了者がOB支援事業に移行したのもおり、現在13名が登録のうえ施設を利用している。地域生活継続の見守りを行う中で、施設の地域貢献事業として機能している。

利用者の支援においては、精神障害や知的障害、発達障害等の利用者が多く、服薬管理や関係機関との連携を行い、地域生活が安定するように取り組んだ。清掃作業・所内作業共に安定して運営することができた。

	定員		29年度実績 新規開始数 (対定員利用率)						28年度実績 新規開始数 (対定員利用率)						
	通所	訪問	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
通所	30人		25	24	27	26	29	31	29	29	31	30	30	28	28.3
訪問		10人	4	4	4	4	4	3	1	1	1	1	3	3	2.8

## 2 主要目標に対する成果

- (1) 通所・訪問事業による居宅での地域生活安定に向けた支援  
通過型の通所事業として機能するため、いずれ通所事業を終了しても地域生活を安定的に送れるように、施設全体でその支援のあり方を検討した。
- (2) 更生施設機能を活用したサービスの提供  
入浴サービスや食事サービス等において、更生施設機能を最大限活用した。また、納涼祭やもちつき大会等の行事においては、更生施設と合同開催した。
- (3) 支援プログラムの充実と地域社会資源等との交流促進  
精神障害や知的障害、発達障害等で既存の施策に乗りにくい利用者を積極的に受け入れた。支援のあり方について地域社会資源等との連携を図った。
- (4) 所内作業、中間就労の推進  
施設共用部分の清掃作業及びリボン縛りの内職作業を安定的に運営できた。

## 3 運営管理

- ・行事について事業計画どおりの内容・回数を着実に実施した。
- ・行事を実施するにあたっては、利用者の主体性を重視し、なるべく利用者と一緒にやっていくようにした。行事内容については、懇談会等で利用者からの意見聴取を実施した。
- ・利用者同士の交流の促進を図るような、バーベキュー大会などの行事を実施した。
- ・清掃作業や所内作業は、利用者自身が主体的に参加できるような運営を心掛けた。
- ・精神状態の悪化や体調不良等に陥った場合には、必要に応じて迅速に緊急訪問や緊急宿泊を実施した。
- ・社会復帰促進事業は近隣の宿泊所を中心に利用し、支援の難しい利用者についても、宿泊所職員等と連携して支援を行い、アパート生活訓練を実施した。
- ・ゴールデンウィークや年末年始などの、少ない職員体制であっても、安否確認を実施し、安全管理に細心の注意を払った。
- ・利用者の緊急時の安否確認を目的として、利用者の同意があれば、合鍵の預かりを実施した。